

# 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善の計画と評価

(2023 年度)

項目	部署	2022 年度 評価 (2023 年 3 月末日)	2023 年度 計画
1	看護部 病棟-外来-手術室	突発的な業務に対応できるようにするため、病棟外来一元化体制を改良を行いながら実施した。 病棟、外来の協力体制が確立したことで、院内連携強化がすすんだ。	引き続き、病棟外来一元化をすすめ、よりよい体制にしていく。 外来・病棟ともに院内連携強化の活動を続けるとともに、在宅支援の分野に関しても、医療介護連携をすすめる。
2	看護部 診療部 薬剤課 検査課 臨床工学課 リハ技師部 放射線課 医療サービス課	放射線技師や臨床検査技師による患者への事前説明や検査の対応、臨床工学技士による機器のサポート、病棟薬剤師の支援、医療サービス課と共に重症度、医療-看護必要度情報のモニタリングなど、チーム医療によるタスクシェアリングを推進した。 医師の支援として代行入力を行うためのプロトコールを作成し、実施した。	引き続きチーム医療によるタスクシェアリングを継続し、協力体制を確立する。 医師の代行入力のプロトコールについて見直しを行う。 専門性を高め、ケアを通して診療の支援を行う。
3	地域連携部 入院サポートセンター 外来	入院サポートセンターの人員体制は前年と同様であったが、入退院の支援については引き続き実施できた。 予約電話対応業務については、予約センターの立ち上げについて、検討した。	看護師の業務負担については、地域連携部（入院サポートセンター）と協力して、支援範囲や体制等を検討していく。 予約対応業務に関して、予約センターの立ち上げについて引き続き検討する。
4	看護部	電子カルテの記載に関して、テンプレートの活用のほか、音声自動入力システムを導入し、記載の時間短縮を図ったほか、ケアプランの簡素化などにも取り組んだ。	引き続き、業務支援システムを活用し、業務負担の軽減を図る。 繁忙度の見える化に取り組む。